



パネルディスカッションの模様



柴田秀一(株)TBSテレビ編成制作本部編成局アナウンス部担当部長



久保田尚・埼玉大学教授

向け取り組んだ事例が紹介された。そして、企業の方にも、生活道路を走行する際には、速度を落とすといった運動心がけられるよう呼び掛けられた。柴田秀一(株)TBSテレビ編成制作本部編成局アナウンス部担当部長をコーディネーターに迎え、パネルディスカッションが行われた。パネリストは基調講演を行った久保田尚に加え、米川明夫・ホンダエンジニアリング(株)安全運転管理者環境安全ブロック安全グループスーパーバイザー

TRAFFIC ADVICE

★交通安全活動をサポートする

8月4日、ラフレさいたま(埼玉県さいたま市)にて「第15回トラフィック・セーフティ・フォーラム 企業内の交通安全教育のあり方」が開催された(主催:交通安全センターレインボー和光)。会場には、144の企業・団体から参加者が集まった。

開会式では、入野吉勝(株)レインボーモーターズ代表取締役社長が「本フォーラムは、健全な安全運転管理を目標に、ご尽力されておられます皆様方と御一緒に、交通事故撲滅のための情報交換や勉強の場づくりを目的として毎年開催し、15回目の開催を迎えることができました」と挨拶した。続けて、金川智・埼玉県警察本部交通安全部部長が来賓を代表して挨拶を述べた。

開会式終了後、久保田尚・埼玉大学教授による基調講演「道路、車、そして人の視点から交通安全を考える」が行われた。講演では、歩行者事故の約6割が自宅から500m以内の生活道路で起きている現状や、コミュニティ・ゾーンの形成やランプ(道路の一部を盛り上げたもの)・狭さく等の生活道路の安全対策について説明があった。さらに、こうした新しい交通安全対策ツールを地域住民が主体となつて設置し、通過するクルマの走行速度を抑制し、生活道路の環境改善に

向け取り組んだ事例が紹介された。そして、企業の方にも、生活道路を走行する際には、速度を落とすといった運動心がけられるよう呼び掛けられた。柴田秀一(株)TBSテレビ編成制作本部編成局アナウンス部担当部長をコーディネーターに迎え、パネルディスカッションが行われた。パネリストは基調講演を行った久保田尚に加え、米川明夫・ホンダエンジニアリング(株)安全運転管理者環境安全ブロック安全グループスーパーバイザー

高井龍哉(株)ヒガ・インダストリーズ経営管理本部人事教育グループスーパーバイザー

米川明夫・ホンダエンジニアリング(株)安全運転管理者環境安全ブロック安全グループ主任



モータージャーナリスト・宮城光氏



高井龍哉(株)ヒガ・インダストリーズ経営管理本部人事教育グループスーパーバイザー



米川明夫・ホンダエンジニアリング(株)安全運転管理者環境安全ブロック安全グループ主任

2006年第15回トラフィック・セーフティ・フォーラム開催

NEWS REVIEW

●第39回二輪車安全運転全国大会 47都道府県の代表が二輪車の安全運転技能を競う



8月5日、6日の両日、(財)全日本交通安全協会/二輪車安全運転推進委員会が主催する「第39回二輪車安全運転全国大会」が鈴鹿サーキットにて開催された。同大会は二輪車の安全運転技能と交通マナーの向上を図り、交通事故を防止する目的で、毎年開催されている。今年も全国47都道府県を代表する185名の選手が参加した。

競技は女性クラス(50cc)、高校生等クラス(50cc)、一般Aクラス(400cc)、一般Bクラス(750cc)の4クラスで、法規履行走行と技能走行が行われ、各クラス別の個人賞と各クラスの得点を合計した団体賞を47都道府県で競う。

2日目の昼には、記念式典が鈴鹿サーキット・国際レーシングコースで開催され、主催者を代表して、大会副会長である宗国英・(社)全国二輪車安全普及協会会長と大庭靖彦・三重県警察本部部長が挨拶。また、参加選手全員が二輪車に乗車して、国際レーシングコースを走るパレードも行われた。

団体優勝は昨年に続き連覇となった富山県、2位・北海道、3位・宮城県。個人賞は女性クラス・中田智子さん(富山県)、高校生等クラス・吉田直人さん(神奈川県)、一般Aクラス・百濟真さん(福島県)、一般Bクラス・鈴木章浩さん(静岡県)が優勝を手にした。

各クラスの個人優勝者

※コミュニティ・ゾーン=歩行者の通行を優先すべき居住系地区等において、地区内の安全性・快適性・利便性の向上を図ることを目的として、面的かつ総合的な交通対策を展開する、ある一定のまとまりをもった地区



●ホンダウイング小林(二輪販売店)

高齢者にニーズの高いモンパル(電動車いす)を安全に利用してもらうためのアドバイス



お客様に乗り方指導を行う小林さん

今年3月、ホンダは新型の「モンパルML200」を全国のモンパル取扱店(モンパルの安全運転指導資格とサービス技術講習資格を有するホンダ汎用特約店と二輪販売店)から発売した。「モンパルML200」は、国家公安委員会の型式指定番号を取得した電動車いすで、公道では歩行者として扱われるため運転免許は不要で、歩道の通行を義務づけられている。

「モンパルの心配がないバンクレスタイヤを採用していることも、購入の大きな決め手になっているようです。足が自由な方なら、タイヤがバンクして立ち往生する心配はほとんどありません。モンパルを購入するお客様はほとんどが、

高齢者であるため、納車時に行う説明は特に重要であると小林さんは考えている。「モンパルを車両だと誤解されているお客様が多いので、歩行者と同じ扱いであることをまず理解していただきます。そして、歩道があるところは歩道を、歩道がないところは道路の右端を通行するということを説明します。」

納車の際はお客様の自宅までモンパルをお届けし、取り扱い方法を教えるだけでなく、その場で発進停止や8の字旋回を練習していただき、乗り方をアドバイスするという。

「初めて電動車いすを利用するというお客様に重視しているのは、急停止したいときに、速度の設定は、慣れるまで1〜2km/hにしておくようにお伝えします。また、出かけるときの服装は、白や黄色など、自分の存在をアピールできる色を着るようにおすすめしています。」



モンパルは店頭で常時展示されている

- 活動短信 ●交通安全センター 8月...
交通安全センターの活動に関するお知らせ。
●企業 (二輪) オートテクニクショップ、本田技術研究所二輪開発センター
●企業 (二輪) サンクス、静岡産業、調布清環、キヤン、ノラフ
●企業 (二輪) ヒューマン・エデュケーション、セイヤ、ヒューマン・エデュケーション、セイヤ、ヒューマン・エデュケーション、セイヤ